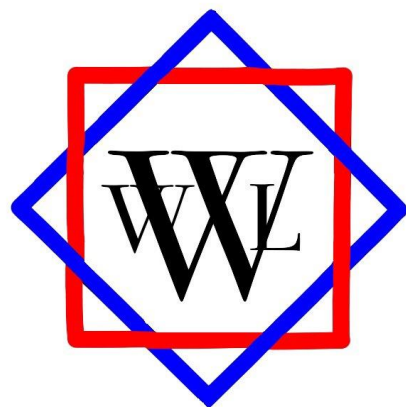


WWL コンソーシアム構築支援事業
スーパーグローバルハイスクール(SGHネットワーク)
令和3年度連絡協議会

WWL 取組発表②(令和2年度指定校)

表題：高大連携の取組に係るプロセスで
苦勞した点や工夫点について



「高大協創」
(Co-Creation)



管理機関：宮崎県教育委員会
拠点校：宮崎大宮高等学校

1 ひなた A L ネットワークにおいて連携する大学関連組織

(1) 宮崎大学(2016年連携協定締結)

- ①新教科「グローバル協創」の協創
- ②国際協働プログラムの協創
- ③大学教育先取り履修の協創
- ④その他の協創(例)「アメリカンインフォメーションデスクレクチャーシリーズ」

「協創」(Co-Creation)
多様な人々と**協働**して社会を
創造する

(2) 九州大学附属図書館付設教材開発センター

- ③大学教育先取り履修の協創

(3) 学校法人大淀学園宮崎産業経営大学(2020年連携協定締結)

- ①新教科「グローバル協創」の協創

(4) 一般社団法人 日本イノベーションセンター

- ②国際協働プログラムの協創
- ④その他の協創(例)「T I S P (東京イノベーションサマープログラム)」

2 宮崎大学との協創①

(1) S G H 指定期間の苦労点

- ①距離(約15km、車30分、公共交通機関60分以上)
- ②連携の難しさ(県内唯一の国立大学、多くの連携依頼)

(2) 連携の工夫点(協創)

①新教科「グローバル協創」の協創

a アドバイザー教員マッチング方式

- ・あくまでも高校教員が課題研究の指導を行う
- ・必要に応じてアドバイザー教員から助言を受ける
- ・アドバイザー教員のリストを大学が作成。そこから研究班(生徒)が選び、大学担当者が教員の承諾を取る。

2 宮崎大学との協創②

(2) 連携の工夫点(協創)

① 新教科「グローバル協創」の協創

b 課題研究の指導方針および評価の共有

- ・ 探究スキルおよびマインドの養成を目的
- ・ 発問を中心にし、助言にとどめる

② 国際協働プログラムの協創

a ウィンタープログラム(海外連携校生徒との研究)

- ・ 企画段階から協創しプログラムを実施

b サマープログラム(本校の海外研修)

- ・ 連携先の情報提供や事前研修を含めた企画の協創

2 宮崎大学との協創③

(2)連携の工夫点(協創)

③大学先取り履修(H A L 科目受講)の協創

a 講義動画の作成と配信

- ・ 高校生向けの動画作成(例)「植物の栽培と管理」(農学部)
- ・ 宮崎大学の配信システムを活用
- ・ ひなた A L ネットワーク連携校への広報(本校)

b 履修と単位認定

- ・ 履修証明は管理機関(県教育委員会)
- ・ 単位認定は大学教員と協議の上、拠点校で評価

2 宮崎大学との協創③

(3) 協創の成果と課題

A 対話による共通認識の形成

- ・ 依頼主と請負という関係でなく、両者に利点のある関係を形成し、協働による取組

B 高大連携のハブ

- ・ ひなた A L ネットワーク拠点校(本校)が連携校の窓口になり宮崎大学との協働の環境整備

C 新たな課題

- ① 大学先取り履修の単位認定の課題
- ② 拠点校指定終了後の運営体制の課題